

平成30年度 福島県校長会 東日本大震災被災地(福島)視察及び懇談会 概要

○期 日 平成30年11月 2日(金)

○参加者 (敬称略)

【全連小】	中村 祥一 (副会長)	升谷 好永 (庶務部長)	
【青森県】	中谷 保美 (会長)		
【岩手県】	古玉 忠昭 (副会長)	久保 智克 (受任理事)	
【宮城県】	川田智佳子 (対策部長)	熊谷 礼子 (仙台市研究部員)	
【秋田県】	佐々木 哲 (会長)		
【山形県】	細梅 雅弘 (理事)	田所 昭裕 (幹事)	佐藤 昌彦 (幹事)
【茨城県】	鬼澤 真寿 (小学部会長)		
【栃木県】	福田 順一 (会長)	柿沼 隆久 (総務副部長)	
【埼玉県】	小野田正範 (会長)	小俣 仁司 (副会長)	福岡 秀晴 (副会長)
【東京都】	平川 惣一 (会計部長)		
【新潟県】	大野 雅人 (会長)	田邊 裕一 (幹事長)	
【福島県】			
県事務局			
	古関 明善 (会長)	須田 尊 (副会長)	遠藤 和雄 (副会長)
	佐々木義通 (事務局長)	木村 政文 (事務局次長)	小島 英二 (総務部長)
	本多 充 (課題担当)	福士 久子 (経理部長)	野木 勝弘 (行財政部長)
	阿部 正明 (研究部長)	庄司 久子 (生徒指導部長)	佐藤 一男 (広報部長)
	鈴木 博 (事務長)	土田 里美 (主事)	
双葉地区小学校長会			
	馬場 隆一 (なみえ創成)	遠藤 裕一 (葛尾)	堀内 弘志 (双葉北)
	加村 育夫 (大野)	岩崎 秀一 (富岡第一)	草野 収 (川内)
	佐藤 昌則 (楡葉北)	福羽由佳子 (広野)	
相馬地区小学校長会			
	山本 秀和 (小高・福浦・金房・鳩原)	吉川 武彦 (草野・飯樋・白石)	

○視察日程

7 : 30 ○福島駅西口発(貸切バス)

9 : 00 ○郡山駅東口発

10 : 30 ◆双葉郡富岡町立富岡第一・第二小学校(富岡校)着
 視察Ⅰ:双葉郡富岡町立富岡第一・第二小学校(富岡校)
 住所:双葉郡富岡町大字小浜字中央237-2
 富岡町立富岡第一中学校校舎
 電話:0240-22-2014
 懇談会Ⅰ:双葉地区小学校長会との懇談

11 : 50 ○昼食(弁当)

12 : 30 ○富岡第一・第二小学校発
 ※徒歩で移動

12 : 40 ○旧東京電力エネルギー館着
 ・本人確認及び視察概要説明 ※免許証準備

13 : 50 ○バスで移動(東電1F移動用バスに乗車)

14 : 10 ◆東京電力福島第一原子力発電所(通称:1F)着
 視察Ⅱ:東京電力福島第一原子力発電所(1F)構内
 ※個人線量計の貸与 身体スクリーニング
 ・バス車中からの視察

15 : 40 ◆東京電力福島第一原子力発電所(1F)発

16 : 00 ○旧東京電力エネルギー館発

18 : 00 ○ホテル福島グリーンパレス着(福島駅西口)

○視察・懇談の概要

【双葉郡富岡町立富岡第一・第二小学校(富岡校)視察及び懇談会の概要】

○視察校校長からの学校概要の説明 富岡町立富岡第一小学校 岩崎 秀一 校長

富岡校：平成30年4月に、町内の富岡第一中学校校舎で再開した。
 富岡第一小・富岡第一中（富岡第二小・富岡第二中の分校も併設）
 三春校：三春町の旧曙ブレーキ三春製造工場跡で再開している。
 富岡第二小・富岡第二中（富岡第一小・富岡第一中の分校も併設）
 ※三春校は平成33年度末まで継続する。



岩崎校長

【震災前と今年度の児童数】

学 校 名	H 2 2 児 童 数	H 3 0 児 童 数	
富岡一小(富岡校)	4 1 5	1 1	1 8
富岡一小(三春校)		7	
富岡二小(富岡校)	5 2 1	2	7
富岡二小(三春校)		5	

子どもたちが「学校は楽しい」と思うことができるように学校経営に心がけている。

「プロフェッショナル in 富岡」と銘打ち、大工の頭領が来校し、大きな一枚板の机を作ってもらっている。

初めての事が多いので「試行錯誤・臨機応変」をスローガンに教職員一丸となって取り組んでいる。



○授業参観・校舎等の視察



ペッパー君が
出迎えてくれました。



5・6年の複式学級での算数の授業。6年生（写真左）が、遠隔システムを使って、三春校の6年生と一緒に授業を行っていた。

その間、5年生（写真右）へは、担任による直接指導が行われていた。

○懇 談

【被災地区（双葉地区）の現状説明】

※ 時間の都合により、帰路のバスの中での説明となった。
 双葉郡浪江町立浪江小学校 遠藤 和雄 校長

- ・ 避難先での長期化する学校経営、避難区域解除に伴う避難元での学校再開、そして極端な児童数の減少等、東日本大震災から7年8ヶ月経った今でも、特異な状況による課題が顕在化していた、課題解決と教育機能の回復・充実に向けた取り組みを、これからも継続的に行っていく必要がある。

・ 課題

① 臨時休業4校の休校に伴う課題

今年度末には、現在臨時休業している浪江町の4校が休校となり、兼務が解消となる

予定である。避難直後には、学校の移転に伴い、兼務を経て多くの教職員が他管内への異動を余儀なくされたが、教職員自身もその家族も、被災し避難を重ねており、避難先での家庭内の問題（介護、子育て等）も同時に抱えていることから、兼務校の校長と本務校の校長が随時適切に連絡を取り合い、教職員一人一人に寄り添った対応が必要となる。

また、これまで兼務職員が復興推進加配として果たしてきた役割は大きく、次年度からの人的支援の維持が大きな課題となる。

② 人的支援の継続等の課題

極小規模校のため、通常の教職員定数では難しい状況への対応も求められる。また避難の長期化に伴う児童や保護者、教職員の心のケアの必要性から、スクールカウンセラーの継続配置は欠かすことができない。併せて、福祉関係機関との十分な連携を図ることができる体制が必要不可欠である。

③ 教職員体制の整備等の課題

地域の実情を考慮し、地域出身教職員や地域の学校の勤務経験を持つ教職員の活用等について県教育委員会に要望していきたい。

【被災校の現状説明】

被災した9校から現状の説明を行った。各校ともに様々な課題を抱えながら、教育活動を行っていることが分かった。

双葉地区の総括した内容については、上記「【被災地区（双葉地区）の現状説明】」に記述したので、ここでは相馬地区小高区と飯館村の現状について記述する。

・ 現在の状況について

① 小高区について

平成29年4月より、震災で被災した元の校舎を修繕して、小高区の4小学校（小高小、福浦小、金房小、鳩原小）が一つの校舎で再開した。

校長は1名、教頭は各校に1名ずつ。

② 飯館村について

昨年度までは川俣町の仮設校舎であったが、平成30年4月より飯館村立の3校（草野小、飯樋小、白石小）が新築された一つの校舎で開校した。

校長は1名、教頭は各校に1名ずつ。

・ 課題

① 現在、それぞれに1つの校舎に複数校が合わさって教育活動を実施している。このことにより、校長は兼務となっているが、教頭及び教職員はそれぞれの学校における配置となっている。そのため、複数教員によるTTで指導を行うことができるが、今後、このような状況がいつまで継続されるのか、そして一つの学校としてまとまった場合は、加配等の配慮のあり方についてどのようなものか不安が残る。

② 飯館村の学校においては、全校児童33名全員がバス通学（11コース）であるため、体力の低下やバス通学による限られた始業・終業時間内での教育活動実施のさらなる工夫が必要である。また、学齢児童を持つ保護者の帰村も大きな課題となる。

【東京電力福島第一原子力発電所（通称：1F）視察の概要】

※ 構内の撮影は固く禁じられているため、構内視察時の写真はなし。



旧東京電力エネルギー館内での説明の様子

事故当時から現在までの、第一原子力発電所の状況の変化と現在の状況および作業内容について

ての説明を受けた後、約1時間、発電所構内の視察を行った。

事故当時からは、各原子炉建屋の様子はかなり変化していた。使用済み燃料プール内からの燃料取り出しに向けて飛散防止対策がされている建屋（1号機）。がれきの撤去や除染・遮へいを終え、ドーム屋根など燃料取り出し用の設備の設置作業が進められている建屋（3号機）。

しかし、汚染水が入った巨大なタンクが所狭しと並んでいる様子を見ると、「廃炉」までの道のりはまだまだ遠いということを感じないわけにはいかなかった。

東電からの説明では「廃炉」までは、これから30～40年はかかるということであった。

他県から視察に参加された校長先生方は、その現状を目の当たりにし、復興までの道のりがまだ道半ばであるということを感じたということであった。